

古川ひろし とくしま通信

VOL.1 平成28年2月15日発行

皆様の声を、徳島を動かす力に。
その架け橋をめざして。



県職員としての経験を胸に

昨年4月に県議会議員としての第一歩を踏み出しますから、早くも10ヶ月が経ちました。皆様方には日頃から多大なお力添えをいただき、心からの感謝とともに、その責任の重さを実感する毎日です。私自身、30年あまり県職員として県政に携わる中で、徳島のさまざまな可能性や課題を実感してまいりました。県民、県行政、県議会の対等なパートナーシップを築くことができれば、県政はさらにレベルアップできると確信しています。

日本が直面する3つの課題

現在、日本には「持続可能な社会」を実現するために、大きな3つの課題があります。1つ目が温暖化をはじめとする地球環境保全の問題です。特に食糧の確保など、気候変動に備える対策が必要です。2つ目の課題が「財政」です。1,000兆円を超える国の借金を減らす行政運営が求められています。3つ目の課題が「社会保障」です。医療、介護、福祉のマンパワーを確保し、高齢者や障がい者、子ども等が縦割りでなく、地域で一体的にケアを受けられる体制づくりが不可欠です。

徳島の地方創生を実現するために

徳島においては、本県にないものを求めるのではなく、今ある自然や文化、観光などの資源を磨いていくことが「地方創生」へ繋がる道です。阿波踊り期間中だけイベント民泊制度を導入するなど、多くの人々を地元に呼び込むための活動も積極的に進めてまいります。引き続き、皆様のご理解とご支援を心よりお願い申し上げます。



古川広志 プロフィール

(ふるかわ ひろし)

- 生年月日 昭和36年(1961年)8月12日
- 出身地 徳島県阿南市那賀川町
- 現住所 徳島県徳島市住吉6丁目7-45
- 家族 妻(ひとみ)と2人家族
- 現党職 公明党徳島県本部 代表代行

●経歴

- 昭和49年 平島小学校 卒業
- 昭和52年 那賀川中学校 卒業
- 昭和55年 富岡西高校 卒業
- 昭和59年 創価大学経済学部 卒業
- 昭和59年4月 徳島県庁 入庁
- 平成26年8月 同庁 退職(31日)
- 平成27年4月 徳島県議会議員に初当選

[県議会] 〒770-8570 徳島市万代町1-1

TEL 088-621-3034 FAX 088-621-2814

[事務所] 〒770-0861 徳島市住吉6-7-45

TEL・FAX 088-612-7118

携帯 080-5661-7372

h_furukawa_houmi@yahoo.co.jp

H P <http://hiroshi-furukawa.jp>

facebookで活動報告を発信中!



徳島県議会 平成27年9月定例会 一般質問

9月議会では、県議会本会議での初質問を行いました。若者の所得拡大や処遇改善をはじめ、重症心身障がい児対策や子どもの貧困対策の推進など、公明党県議として行った質問内容をダイジェストでお伝えします。



地方版政労使会議の設置について

質問 県、労働界、経済界の各代表で雇用環境の改善などを話し合うための場として、徳島県版の政労使会議を設置し、特に若者の所得拡大や処遇改善をきめ細かく進めるべきと考えるが、所見を伺いたい。

答弁 [商工労働観光部長] 徳島県内においては、徳島労働局が平成26年12月に「働き方改革推進本部」を設置し、所定外労働時間の削減や休暇の取得促進をはじめとした取り組みを行っています。県としましても、雇用環境の改善に向けた地域全体の気運の醸成が重要であると考えており、この「働き方改革推進本部」と連携し、より一層の職場環境の改善を促してきたところです。労働団体や経済団体とも連携を密にし、引き続き若年層や女性等の「雇用環境の改善」に取り組んでまいります。

医療的ケアが必要な障がい児対策の推進について

質問 本県における医療的ケアが必要な「重症心身障がい児」の子どもの数や退院支援の現状、在宅での生活実態などを調査するとともに、地域生活を可能にする体制整備のための検討の場を設けるべきと考えるが、所見を伺いたい。

答弁 [知事] 本年7月、学識経験者と施設の関係者や当事者などで構成される「徳島県障がい者自立支援協議会」において、医療的ケアを必要とする重症心身障がい児の「在宅支援の在り方」が協議されました。推進部会では、地域生活における現状把握の方法や、医療との連携の在り方などについて具体的な検討を進めています。重症心身障がい児とそのご家族の皆様が地域で安心して暮らせる体制づくりに向けて、しっかりと取り組んでまいります。

子どもの貧困対策の推進について

質問 貧困が世代を超えて連鎖することのないよう、教育を受ける機会の均等を図るために、まずは児童養護施設から大学等へ進学する退所者に対し、住居費の助成等の支援策を講じるべきと考えるが、所見を伺いたい。

答弁 [県民環境部長] 県では貧困の状況にある子ども、若者への就学学習支援を主な取り組みの一つとしてプランに位置付け、子どもが家庭の状況にかかわらず進学に必要な学力を身に付けられるよう各種事業を積極的に推進しております。さらに児童養護施設を退所し、大学等に進学する児童には「自立生活費」の支給や「身元保証人」の確保対策などの支援を行っているところです。今後、年末に取りまとめられる政策パッケージを注視し、子どもの貧困対策にしっかりと取り組んでまいります。

本県の海外留学生受け入れ促進日本語学校の設立について

質問 徳島と世界をつなぐ海外留学生の受け入れを促進するとともに、その一つの方策として、県内での日本語学校設立を県が主導して進めるべきと考えるが、所見を伺いたい。

答弁 [副知事] 外国人留学生の受け入れは、本県においても「地方創生」につながる取り組みの一つであると考えています。日本語学校の設立に関しましては、以前、県内の民間企業により数校開校していたものの学生数の減少などから閉校した経緯があることから、まずは留学生のニーズの把握に努めることが必要であると考えております。関係機関のご協力をいただきながら留学生へのアンケートや聞き取り調査等を実施するとともに、留学生数の推移や日本語学校の受講状況の調査などに取り組んでまいります。

県職員のワークライフバランスについて

質問 噫緊の諸課題を担当すること等により、長時間超過勤務者を多く抱える所属に対して、これまでの習慣にとらわれない思い切った職員の重点配置を行うべきと考えるが、所見を伺いたい。

答弁 [副知事] 「ワークライフバランス」の推進も図りつつ、職員一人ひとりが、その能力を存分に発揮できる組織執行体制を構築し、さらなる県民サービスの向上に向けて全力で取り組んでまいります。

災害時のペット対策について

質問 動物愛護のみならず、放浪動物による悪影響防止の観点からも、災害時のペット対策をしっかり進めていくべきと考えるが、所見を伺いたい。

答弁 [危機管理部長] 市町村をはじめ、県獣医師会、ペット関連事業者はもとより、動物愛護推進員などのボランティアの皆様と緊密に連携を図りながら、災害時においても「人と動物が共に暮らせる地域づくり」を着実に進めてまいります。



少子化対策の具体的案を求める姿が徳島新聞に掲載されました



平成27年12月22日付の徳島新聞記事中で、県議会12月定例会での私の質問が掲載されました。内容は少子化対策として「新次元の結婚支援を展開する」という知事の発言に対して「言葉だけではない」と何度も方向性を質問したというもの。言葉を濁し建設的な議論を拒む県に対し、具体的な案を求める姿勢がクローズアップされました。

子どもを安心して生み育てられる 徳島づくりに期待しています

わかば認定こども園 園長 野田晃弘さん



質の高い保育サービスを実現するために

当園が目標としているのは、地域に根ざした総合的な子育て支援です。現在、少子化や母親の育児不安等、子育てにまつわる多くの課題が指摘されています。保護者やご家族に寄り添いつつ、子どもたちの健やかな成長を目指す。それが、私たちの役割だと考えています。質の高い保育や子育て支援を行うためには、優れた人材の確保が不可欠です。子どもの未来を育む保育士が、専門職として適正に待遇されるよう、更なる改善に取り組んでいただければと、心より願うところです。

現場を見つめる実直なお人柄に感動

初めて古川さんとお会いした時に印象的に残ったのが、「特定の個人や法人が得をするような支援はしくありません。地域の中で社会のために真摯に取り

組む方を積極的に応援したいのです。」という言葉です。県職員として最前線で取り組んでこられたからこそ、現場感覚で掴んだ一つ一つの課題に実直に向き合う姿勢を持たれたのだと感じました。私たちも、行動でお応えしていきたいと考えています。

総合的な子育て支援環境を日本にも

また、公明党はフィンランドの育児支援サービスをもとに「日本版ネウボラ（ネウボラはフィンランド語で『アドバイスする場所』という意味）」を積極的に推進されているそうです。妊娠、出産から子育てまで、ご家族を継続的に支援する仕組みとのことです。大変感銘を受けました。安心して子どもを生み育てることができる徳島のためにも、ぜひ実現してほしいですね。

活動状況

皆さんのご要望に応え、日々の暮らしに安心を。

● みなと公園の電灯修理

江本武司さん

子どもから高齢者までが利用する新町川沿いの「みなと公園」の街灯が10灯ほど切れていきました。数日中に対応していただき、地域の方々も「安全性が高まった」と喜んでいます。



● 金沢団地の雨漏り補修

杉山久夏さん

県営金沢団地6号棟の屋上から雨漏りがあり、廊下に水が溜まり、エレベーターにも被害が及んでいました。迅速に対応していただき、住民も安心して暮らすことができています。



● 高齢者の居住支援

阿部俊子さん(友人・石岡篤子さん)

主人が亡くなり、それまで暮らしていた身障者用の部屋(県営住宅)からの退去を迫られていました。35年間暮らし慣れた団地に留まることができ、本当に嬉しく思います。

